

シリーズ「やさしい英語による経済学講座」

「貧困」をテーマに120人が聴講

国際交流協定校の客員教授がすべて英語で講演する第127回国際交流特別講演会・シリーズ「やさしい英語による経済学講座」が6月3日から生田キャンパスで始まった。初回の「Can we make poverty history?」(貧困を過去のものにできるか?)には市民ら約120人が聴講に訪れ、会場はほぼ満席となった。

講師は、貧困問題が専門の英国ブリストル大学政策研究学部のデビッド・ゴードン教授(専修大学経済学部客員教授)。パワーポイントを使いながら日本人に聞き取りやすい英語で、貧困を過去のものにすべき提言を、さまざまな事例を紹介しながら講演した=写真。アットホームな雰囲気の中、活発な質疑も交わされた。



ゴードン教授による同講座は今後6月17日、24日、7月8日にも行われる。詳しい情報は[国際交流センター](#)のホームページで。

留学生交流バスハイク

富士の雄姿に感激

「留学生交流バスハイク」が5月28日に行われ、留学生、日本人学生ら37人が参加。富士山五合目散策を楽しんだ。

前日から早朝にかけて大雨に見舞われたが、正午前には晴れ渡り、五合目に到着すると雪化粧が残る見事な“雄姿”が現れた。「富士山をこんなに間近に見るのは初めて」と、留学生たちは競って写真を撮り合っていた。

河口湖でほうとう鍋を楽しんだ後、工房で万華鏡作りに挑戦。バスの中でも交流が進み、「友達ができました」という弾んだ声が聞かれた。



▲富士山をバックに＝留学生交流バスハイク

春期日本語・日本事情プログラム

カルガリー大生ら25人参加

2006年春期日本語・日本事情プログラムが5月10日から6月8日まで行われ、カルガリー大学(カナダ)からの短期留学生ら25人が参加した。

同大学からの参加は昨年に続いて2回目。約4週間の短い期間だったが、生田キャンパスでの日本語授業のほか書道教室、日本民家園や近隣の小学校訪問、ビール工場見学、歌舞伎鑑賞、ホームステイも体験。日本の伝統文化に触れ、専大生や地域の市民との交流も行われた。なお6月18日からは夏期日本語・日本事情プログラムがウーロンゴン大学(豪州)の学生らを迎えて実施される。



▲力作を示すカルガリー大生

第3回専修大学海外留学フェア

7月3～7日開催 帰国留学生プレゼンを連日実施

留学希望者に、本学の留学プログラム(長期交換留学、中期留学、春期プログラム)についてや協定校、TOEFLなどの情報を提供する「第3回専修大学海外留学フェア」が開催される。今年は、5日間にわたって展開。昨年好評だった帰国留学生によるプレゼンテーションを連日、実施する。最終日には、時間を延長して(13時～17時)個別相談を国際交流事務課で実施。

▽日時＝7月3日(月)～7日(金)12時15分～55分。

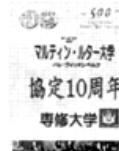
▽場所＝生田キャンパス979号教室

▽内容＝留学プレゼンテーション、個別相談、ビデオ上映、写真・ポスター展示ほか。

留学の参考に— 「ハレ大学」紹介冊子

マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルクを紹介する冊子が出来上がった(A4判、24ページ)＝写真。今年3月まで国際交流事務課に勤務していた同大学出身のシュテファニ・リガーさんの尽力によって完成。

同大学の歴史、概要、キャンパス生活の様子、ハレ、ヴィッテンベルク両市の紹介など盛りだくさんの内容で、留学希望者には参考になる内容だ。希望者は国際交流事務課へ。



06年度長期交換留学生

米オレゴン大学などに6人

長期交換留学プログラムで渡航する06年度長期交換留学生6人への留学許可書交付式が5月11日、生田キャンパスで行われ、大林守センター長から留学許可書と奨学生採用通知が手渡された。

留学生の氏名・留学先は次の通り(敬称略)。

【英語圏】

●オレゴン大学

- ・ 森 隼人(経済3)
- ・ 阿部 智浩(法 3)
- ・ 林田 真吾(経営3)

●ネブラスカ大学リンカーン校

- ・ 杉浦 元喜(経済2)

【スペイン語圏】

●イベロアメリカーナ大学

- ・ 板子 直樹(経済3)
- ・ 木村 亮(文 3)

※長期交換留学プログラム…国際交流協定校(12カ国16大学)に最大1年間留学し、協定校の正規科目を修得するプログラム。長期交換留学奨学生に採用され、派遣先大学の学費の一部または全額が免除となる。

《緑地帯》

サッカーと愛校心

専大の地元クラブといえば川崎フロンターレ。ホームの等々カスタジアムは、JR南武線登戸駅から約13分、武蔵中原駅のそばだ。

このフロンターレ、番狂わせだと言われながら、浦和や鹿島をおさえて、堂々、J1リーグの首位を走りつづけている。

ところがなぜか専大生の話題には、あまりなっていないようだ。

ワールドカップはそれなりに話題を集めているが、特に話題になっているのが、駒沢大学出身の巻誠一郎選手だったりする。

専大サッカー部はあまりいい成績をあげていないが、それでもフロンターレと組んで、子供のサッカー教室をひらいている。でもその話題も、学内ではあまり聞かれない。

専大生の地元意識の薄さが、表われているのではないか。

たしかに、生田界隈のスーパーやコンビニや居酒屋には、みんなけっこう詳しい。でもそれは、どんな街にもあるものだ。決して、ある地元特有のものではない。

この地元意識の薄さは、もしかしたら、大学への無関心につながっているのではないだろうか。

というのも、専修大学が大好きだ、専大の大学生活はすばらしい、と本気で思っている専大生は、数少ないように感じられるからだ。伝統のある私立大学としては寂しい。

自分が今ここにいることの意味、この場所や環境や歴史のもつ意味、それをしっかりと認識しないと、学生生活は輝かない。

自分自身を振り返り、愛着をもてるものを探そう。それはすぐそばにある。

(学生部)